

《担当者名》○木浪智佳子kinami@hoku-iryo-u.ac.jp 神田直樹

基礎・統合看護学講座：竹生礼子 塚本容子 明野伸次 福井純子 川添恵理子 明野聖子 山田 拓
三津橋梨絵 横川亜希子 増田悠佑 米川弘樹 山口夕貴 表山知里

生涯発達看護学講座：常田美和 唐津ふさ 熊谷歌織 内ヶ島伸也 八木こずえ 宮地普子
高木由希 中安隆志 若濱奈々子 伊藤加奈子 谷本真唯 船橋久美子 川崎ゆかり
野崎由希子

【概要】

卒業研究 での学びを基盤として、研究に不可欠な文献クリティークの方法を学ぶ。そのうえで、紀州の諸学を通して得た知識を活用しながら看護実践を研究的視点で捉え、研究テーマに発展させる力を養うために、研究計画書の作成までの過程を学ぶ。

【学修目標】

1. 講義・演習ならびに看護学実習の体験から探究したい関心領域を見いだす。
2. 見いだした関心領域について、研究の可能性などを見極めて研究テーマを絞り込む。
3. 研究テーマに関連した文献を検討し、研究の目的を明らかにする。
4. 研究目的に適した研究方法を選択する。
5. 指定の構成内容や様式を満たした研究計画書を作成する。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1～45	看護研究の実際	専門領域ごとにゼミナール形式で取り組む。	全担当教員

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】

- ・評価・単位認定は、指導教員が行う。
- ・取り組みの姿勢、発表、研究計画書を総合的に評価する。

【教科書】

前田ひとみ編：基礎看護学（4）：看護研究 第4版，メディカ出版，2022．

【備考】

参考書：3年次の卒業研究 を参照のこと。

【学修の準備】

- ・ゼミの課題に取り組めるように、教科書や参考書を活用し資料を作成して学修の準備をすること（予習45分）。
- ・ゼミ内容を振り返り、疑問点や次回のゼミに向けての課題を解決できるように教科書、資料を読み直すこと（復習45分）。

【ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）との関連】

DP3：社会環境の変化や保健・医療・福祉の新たなニーズに対応できるように自己研鑽し、自らの専門領域において自律的・創造的に実践する能力を身につけている。

DP5：多様な文化や価値観を尊重して地域社会に貢献できる能力を身につけている。

【学習の進め方・作成要領】

1. 学修の進め方
 - 1) 専門領域ごとにゼミナール形式で卒業研究に取り組む。なお、研究に要する費用はすべて自己負担とする。
 - 2) 研究計画書を提出する。
提出期限：令和7年12月5日（金）17時（厳守）
提出先：学務部看護福祉学課
2. 作成要領（手引き参照）
 - 1) 研究計画書の構成
 - ・序論（問題提起、研究の意義・背景）・文献検討 ・研究目的 ・方法論（研究枠組み、研究仮説、対象の選定方法、データの収集方法、測定用具、分析方法など）・倫理的配慮 ・文献リスト
 - 2) 作成様式
 - (1) フラットファイル（A4判、左横綴じ、色はブルー）に、以下の順で綴じる。
抄録、研究題目、目次、序論、文献検討、研究目的、方法、倫理的配慮、文献リスト、図、表、資料

- (2) フラットファイルには、表紙・背表紙をつける。
- (3) 抄録は800字程度とするが、各ゼミの指定文字数に従う。
- (4) 研究計画書の書式は、下記に従う。
 - A4判用紙 35字×28行 10枚程度
 - 余白は、上下30mm、左35mm、右20mm

【実務経験】

看護師、保健師、助産師の資格を有する教員が指導にあたる。

【実務経験を活かした教育内容】

医療現場での実務経験を活かし、看護実践を研究的視点で捉えた研究テーマを探究し、実行可能性のある研究計画書を作成するための教育を行う。

【その他】

この科目は主要授業科目に設定している